

# 猪高緑地（名古屋市名東区）におけるアカネズミ寄生節足動物の40年前の調査

高崎 保郎

〒465-0026 名古屋市名東区藤森一丁目14

## Survey of Parasitic Arthropoda of *Apodemus speciosus* in Itaka Ryokuchi Park, Meito-ku, Nagoya City, Aichi Prefecture, Japan, between 1982 and 1983

Yasuo TAKASAKI

14 Fujimori 1-chome, Meito-ku, Nagoya, Aichi 465-0026, Japan

### 要旨

1982年から1983年の1年間、猪高緑地においてアカネズミ *Apodemus speciosus* 寄生節足動物についてツツガムシ類 *Trombiculidae* を始め36種を確認すると共に、年間の消長を調べた。

### はじめに

愛知県衛生部在職当時、本来の職務ではなかったが、趣味としての昆虫の知識を生かし、食品・環境の害虫 (Vector と Nuisance) に関し、行政的対処や関係職員の研修、部内マニュアルの作成等を一手に担ってきた。その一部である食品・室内塵中のダニも扱っていたが、新型ツツガムシ病媒介種にも関心を抱き、名古屋大学医学部医動物学教室の故熊田信夫教授 (1926~2009) の御指導を受け、猪高緑地をフィールドとして1年間調査を実施した。しかし、その成果は部内限りで公には発表しなかった。

なごや生物多様性センターではかなりの種や個体数の哺乳類等が捕獲あるいは回収されており、外部寄生虫調査のための材料には事欠かないと思われる。もし、将来生物多様性や哺乳類による疾病伝播のおそれの観点からかかる調査が考慮される機運が生じた場合、40年前のデータではあるが名古屋市に関する過去の比較資料の一例として参考までにここに公にするものである。

### 1. 調査方法

#### (1) 実施期間

1982年8月から1983年7月までの12か月間

#### (2) 調査場所

調査ポイントは大部分を現猪高緑地の北部と、一部をその東側市境の丘 (図1上部に見える丘) の東下に隣接する長久手市根岳地内に設定した。猪高緑地と事実上一体であった根岳の二次林帯は2004年宅地造成により失われている。ポイント所在地は名古屋市名東区猪高町上社



図1. 1980年代の猪高緑地北部の景観



図2. アカネズミトラップ



図3. ダニ回収装置

猪高緑地と愛知県長久手市長湫根岳である。トラップ設置環境は二次林のササ群落内又は二次林内に点在する水田、畑、池、細流の脇である。

### (3) 鼠捕獲とダニ回収

#### ア. 器具

金網鼠取器1個と「パンチュウトラップ」と称する簡易なプラスチック板をバネとしたトラップ(図2)。餌は初期のみエビ風味のスナック菓子、後に生サツマイモ細片を用いた。

#### イ. 設置と回収

金網籠1個とパンチュウトラップ15~20個を月に1~4回夕方方に設置し翌早朝に回収した。回収時、籠と一部のパンチュウトラップではアカネズミは生存していたが、大部分は死亡していた。細流脇ではカメが持ち去ろうとしていたことがあった。

回収した鼠は写真用三脚を利用し、糸で水を入れた小容器上に吊るし、水面に落下したダニを回収した(図3)。

### (4) 検査

プレパラートを作成し検鏡した。

## 2. 調査結果

### (1) 被寄生者

捕獲された鼠は全てアカネズミ *Apodemus speciosus* であった。捕獲数は猪高緑地内が31頭、長久手市内が11頭で、13頭捕獲の10月以外は月毎の変動は1~4頭で大きくなかった。

### (2) 寄生者(図4-25)

表1に示す36種が確認された。ダニ目32種の内、中気門亜目1種、前気門亜目1種、無気門亜目のHypopus(第二若虫)4種、隠気門亜目1種については、科までの同定には至らなかった。

ハダニ科の2種は通常植物体上にあり、隠気門亜目の2種とカニムシは通常土壌中に棲息するもので、それらは便乗者とみなされる。

### (3) 寄生率と月別寄生の有無

対象36種について表2に示した。寄生率は各種毎の全捕獲鼠数に対する被寄生鼠数の割合である。各月に寄生が有った場合は黒丸で表示した。ホクマントゲダニの寄生率が最多で、しかも、本種だけが年間を通じて寄生していた。フジツツガムシは同率の76.2%、サダスクガリーレツツガムシ、HypopusA、ズツキダニの一種、ハツカネズミジラミがこれに次ぐ。1回だけひと月だけの稀な検出の例もあった。

### (4) ツツガムシ類

本調査では新型ツツガムシ病のVectorの探索が目的の一つであったが、猪高緑地(一部は当時の長久手町)では発見されず、病原性は無いとされるサダスクガリーレツツガムシ、フジツツガムシ、キタサトツツガムシ、ミヤジマツツガムシの4種が棲息していた。表3に月別捕獲鼠数に対する被寄生鼠数と、同じく月別の鼠1頭当りの寄生ダニ数を示した。寄生するダニの個体数が最大なのはフジツツガムシで、それより大分少ないが



図4. *Haemogamasus japonicus*



図5. ホクマントゲダニ

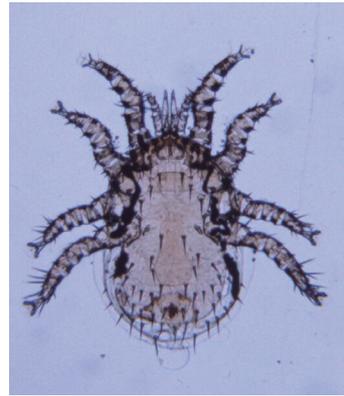


図6. モグラトゲダニ



図7. マダニの一種



図8. マダニの一種の幼虫

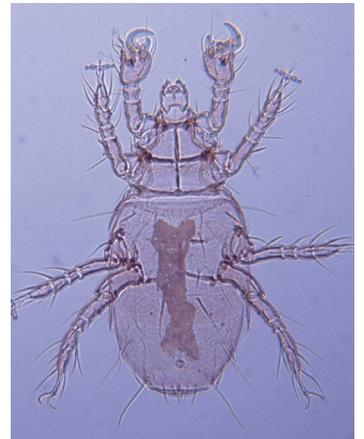


図9. クマダハサミヒナダニ



図10. ツメダニの一種

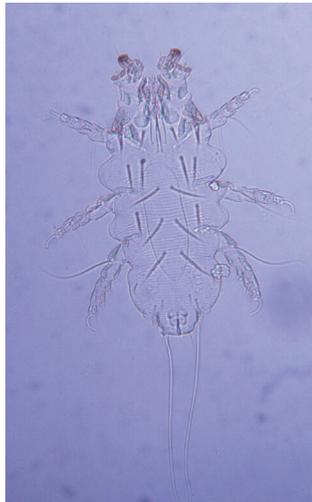


図11. アカネズミケモチダニ

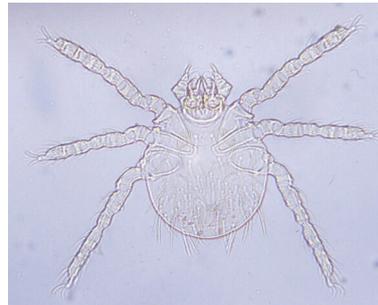


図12. サダスクガーリエプツツガムシ



図13. フジツツガムシ生体

サダスクガーリエプツツガムシが続き、キタサトツツガムシ、ミヤジマツツガムシはまれであった。いずれも盛夏から秋口にかけて寄生は見られなかった。

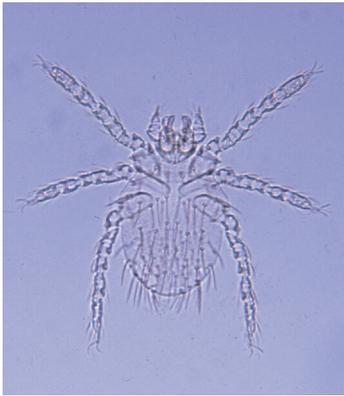


図14. フジツツガムシ

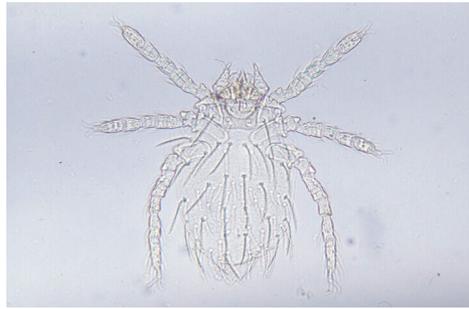


図15. キタサトツツガムシ

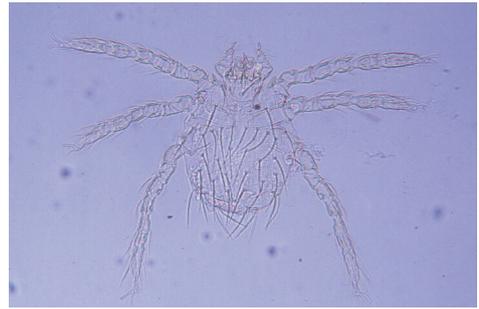


図16. ミヤジマツツガムシ



図17. ムギコナダニ



図18. Hypopus A



図19. Hypopus B



図20. ツツキダニの一種



図21. ツツキダニの一種の側面



図22. オオヤドリカニムシ



図23. ハツカネズミジラミ



図24. アカネズミジラミ



図25. ササアカネズミノミ

表1. 寄生節足動物一覧

目・亜目	科	種
中気門亜目 Mesostigmata	マヨイダニ科 Ascidae	<i>Iphidozercon</i> sp.
	トゲダニ科 Laelapidae	トゲアシボソトゲダニ <i>Hypoaspis pavlovskii</i>
	トゲダニ科 Laelapidae	<i>Haemogamasus japonicus</i>
	トゲダニ科 Laelapidae	ヨウチキヌゲダニ <i>Eulaelapus multisetatus</i>
	トゲダニ科 Laelapidae	<i>Androlaelaps</i> sp.
	トゲダニ科 Laelapidae	ホクマントゲダニ <i>Laelaps jettmari</i>
	トゲダニ科 Laelapidae	モグラトゲダニ <i>Oryctolaelaps bibikovae</i>
		中気門亜目の一種
マダニ亜目 Ixodides	マダニ科 Ixodidae	タネガタマダニ <i>Ixodes nipponensis</i>
	マダニ科 Ixodidae	<i>Ixodes</i> sp.
前気門亜目 Trombidiformes	オソイダニ科 Cunaxidae	オソイダニ科の一種
	ホコリダニ科 Tarsonemidae	<i>Tarsonemus</i> sp.
	ヒナダニ科 Pygmephoridae	クマダハサミヒナダニ <i>Pygmephorus kumadai</i>
	ヒナダニ科 Pygmephoridae	スズキカタビロヒナダニ <i>Bakerdania suzukii</i>
	ツメダニ科 Cheyletidae	<i>Eucheyletia</i> sp.
	ケモチダニ科 Myobiidae	アカネズミケモチダニ <i>Myobia nodae</i>
	ツツガムシ科 Trombiculidae	<i>Gahrleipia sadaski</i> サダスクガーリエブツツガムシ
	ツツガムシ科 Trombiculidae	<i>Leptotrombidium fuji</i> フジツツガムシ
	ツツガムシ科 Trombiculidae	<i>L.kitastoi</i> キタサトツツガムシ
	ツツガムシ科 Trombiculidae	<i>L.miyajimai</i> ミヤジマツツガムシ
	ハダニ科 Tetranychidae	ハダニ科の一種
		前気門亜目の一種
無気門亜目 Astigmata	コナダニ科 Acaridae	ケナガコナダニ <i>Tyrophagus putrescentiae</i>
	コナダニ科 Acaridae	ムギコナダニ <i>Aleuroglyphus ovatus</i>
	チリダニ科 Pyroglyphidae	コナチリダニ <i>Dermatophagoides farinae</i>
	ズツキダニ科 Listrophoridae	ズツキダニ科の一種
隠気門亜目 Cryptostigmata	フリソデダニ科 Galumnidae	フリソデダニ科の一種 隠気門亜目の一種
カニムシ目 Pseudoscorpiones	ヤドリカニムシ科 Chernetidae	オオヤドリカニムシ <i>Megachernes ryugadensis</i>
シラミ目 Anoplura	ケモノヒメジラミ科 Hoplopleuridae	ハツカネズミジラミ <i>Polyplax serrata</i> アカネズミジラミ <i>Hoplopleura akanezumi</i>
ノミ目 Siphonaptera	ケブカノミ科 Hystriechopsyllidae	ササアカネズミノミ <i>Neopsylla sasai</i>

表2. 寄生率と月別寄生の有無

寄生節足動物	被寄生 鼠 数	寄生率 (%)	1983							1982				
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
<i>Iphidozercon</i> sp.	1	2.4											●	
トゲアシボソトゲダニ	2	4.8										●		
<i>Haemogamasus japonicus</i>	10	23.8		●	●		●	●			●	●	●	
ヨウチキヌゲダニ	5	11.9	●						●	●		●		
<i>Androlaelaps</i> sp.	1	2.4										●		
ホクマントゲダニ	32	76.2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
モグラトゲダニ	1	2.4					●							
中気門亜目の一種	8	19.0	●		●	●	●	●						
タネガタマダニ	1	2.4									●			
<i>Ixodes</i> sp.	4	9.5				●	●	●				●		
オソイダニ科の一種	1	2.4												●
<i>Tarsonemus</i> sp.	1	2.4									●			
クマダハサミヒナダニ	2	4.8		●		●								
スズキカタビロヒナダニ	11	26.2	●	●	●	●						●	●	●
<i>Eucheyletia</i> sp.	2	4.8		●					●					
アカネズミケモチダニ	3	7.1							●	●		●		
サダスクガーリエプツツガムシ	27	64.3	●	●	●	●	●	●				●	●	●
フジツツガムシ	32	76.2	●	●	●	●	●					●	●	●
キササトツツガムシ	2	4.8										●		
ミヤジマツツガムシ	5	11.9		●	●							●	●	●
ハダニ科の一種	5	11.9				●				●			●	●
前気門亜目の一種	1	2.4										●		
ケナガコナダニ	2	4.8								●	●			
ムギコナダニ	1	2.4							●					
コナチリダニ	1	2.4				●								
ズツキダニ科の一種	18	42.9		●	●		●	●	●	●		●	●	
Hypopus A	20	47.6	●	●	●	●	●	●				●	●	●
Hypopus B	2	4.8												●
Hypopus C	1	2.4								●				
Hypopus D	5	11.9				●	●	●	●					
フリソデダニ科の一種	1	2.4								●				
隠気門亜目の一種	2	4.8								●		●		
オオヤドリカニムシ	1	2.4							●					
ハツカネズミジラミ	20	47.6	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	
アカネズミジラミ	5	11.9				●		●				●		
ササアカネズミノミ	3	7.1				●	●						●	

表3. ツツガムシ類の月別寄生状況

種	1983								1982				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
サダスクガーリエ ブツツガムシ	被寄生鼠数/捕獲鼠数	2/2	2/2	2/3	3/4	4/4	1/4	0/1	0/2	0/1	8/13	3/4	2/2
	最多	11	31	11	8	15	2				9	36	13
	鼠1頭当り 寄生ダニ数	最小	3	3	0	0	0	0			0	0	7
	平均	7	17	3.7	3.3	5.8	0.5				1.8	12.0	10.0
フジツツガムシ	被寄生鼠数/捕獲鼠数	2/2	2/2	3/3	4/4	4/4	0/4	0/1	0/2	0/1	11/13	4/4	2/2
	最多	259	352	135	70	42					143	37	62
	鼠1頭当り 寄生ダニ数	最小	58	58	27	26	14				0	2	28
	平均	158.5	205.0	81.7	50.5	28.5					16.3	15.0	45.0
キタサトツツガム シ	被寄生鼠数/捕獲鼠数	0/2	0/2	0/3	0/4	0/4	0/4	0/1	0/2	0/1	2/13	0/4	0/2
	最多										5		
	鼠1頭当り 寄生ダニ数	最小									0		
	平均										0.6		
ミヤジマツツガム シ	被寄生鼠数/捕獲鼠数	0/2	1/2	1/3	0/4	0/4	0/4	0/1	0/2	0/1	1/13	1/4	1/2
	最多		1	1							3	1	2
	鼠1頭当り 寄生ダニ数	最小	0	0							0	0	0
	平均		0.5	0.3							0.2	0.3	1.0

### おわりに

本来かかる調査は医動物関係機関が研究業務として実施するたぐいのことであるが、今回は個人の関心事として行ったものである。ダニの回収装置は寝室にセットし、文字通りダニと寝（食）を共にした。名古屋市内の未調査地域である猪高緑地において、病原性のツツガムシ類は居ないらしいことを含む哺乳類寄生節足動物の寄

生状況の一端を知ることができた。40年前のデータではあるが、いつの日か役立つことがあれば幸いである。

御親切に教えて下さったありし日の熊田先生を偲び感謝の念を新たにしたい。今回の執筆に当たり、助言を賜った元愛知医科大学寄生虫学教室講師近藤繁生氏に御礼申し上げる次第である。

